

県北 どらくろあ

第8号 2016年11月1日（毎月1日発行）

県北群星伝⑤ 二十七年目の「鯉心」

あらせひでかた
荒瀬秀賢 69歳（三次市三次町）

どんなに良いことがあった日でも、その日のナイターでカープが負けてしまえば、物足りない一日になってしまう。逆にどんなに嫌なことがあった日でも、カープさへ勝ってくればその日はハッピー。

そんな鯉患いの人間が、広島県内には、いや、全国にはたくさんいる。今回は、その代表として、荒瀬外科の院長、荒瀬秀賢さんに登場していただいた。



その二十四年間の鬱屈を爆発させるように、平成二十八年十月号の「あらせニュース」は、カープ優勝の歓喜に溢れている。二十五年ぶり、七度目のリーグ優勝の記念特集号になっている。

その号の「鯉心」に、荒瀬さんは作家の永井明氏と一緒にカープを観戦したときの思い出を書いていく。医師の視点から書かれた「ぼくが医者をやめた理由」は、内部告発的な内容も含まれていて、ベストセラーになった。永井氏は医療ジャーナリストとしても活躍、ドラマにもなった「医龍」の原作漫画は、永井氏が原案を手掛けている。三原出身で、やはり熱烈的なカープファンだったが、平成十六年に五十六歳で早逝。

荒瀬さんと永井氏は東京医科大学の同級生で、親交は深い。永井氏が医者を辞めて「からだの手帖」という季刊誌を発行したときには、荒瀬さんに原稿依頼している。

「原稿料は？」
「そんなもんはだせん」
「カープのことしか書かんよ」
「それでええ」
そんなやりとりがあったって、

「広島カープの意味すること」の連載が始まった。ペンネームは山本秀雄。ミスター赤ヘル・山本浩二の「山本」、鉄人・衣笠祥雄の「雄」、そして荒瀬秀賢の「秀」を合体させた豪華版だ。

しかし、「からだの手帖」は医療や健康がテーマ、医師であるにもかかわらず堂々とカープのことを書いた荒瀬さんの「カープ愛」は筋金入りだ。それを許した永井氏も負けない。「からだの手帖」で永井氏が使っていたペンネームは「広島光明」、郷土愛が溢れている。

永井明氏の「あやしい船医、南太平洋をゆく」（角川書店）では、長年医療現場を離れていた著者が、船医として水産大学の練習船に乗り込むために、三次の荒瀬外科で研修を受ける様子がコミカルに描かれている。アラセ院長も登場、三次市立図書館に所蔵してある本なので、興味のある人はご一読を。

荒瀬家は、医者の家系である。ルーツをたどれば江戸時代、島根の石見で医療行為をしていたようだが、荒瀬秀賢院長で十一代目になる、らし

い。市井の町医者として代々、患者に寄り添ってきた。

病気の予防の啓蒙にも早くから取り組んでいて、「あらせニユース」の発行もその一つ。スタートは昭和六十二年七月で、編集担当の奥さん、妙子夫人との二人三脚で、一回も休むことなく毎月、発行している。同時期にスタートした「あらせ健康教室」も、医療関係の多彩な専門家を講師に招いて隔月に開催、毎回、多くの聴講者が集まっている。

荒瀬さんは、三次出身のプロ野球選手、梵英心選手の後援会「英心会」の会長でもある。新人王や盗塁王、ゴールデングラブ賞を受賞した名選手だが、昨年から出場機会が少なくなっている。カープ優勝の美酒の中で、ほろ苦いものがあるとすれば、三次出身の梵選手や永川勝浩投手が活躍できなかったことだろうか。捲土重来、来年に期待である。

「おめでとうございませう。25年ぶりということ、今回は先生が95歳の頃ですね」

「死んでも95まで生きてやる」カープ優勝後のメールのやりとりが、「鯉心」で紹介されている。95歳の「鯉心」を読みたいと思っ

た。二十五年ぶりのリーグ優勝の次の目標は、昭和五十九年以来の日本一だ。鯉患いは、どんな名医にも治せないのです。

図書館員ノート ③

「瀬戸際のわたし」

世の中には、いくつもの締め切りがある。それに間に合うかどうか、いつもぎりぎりの私の姿を見て、職場では「瀬戸際の女」と呼ばれている。

そんな私がこの春から三次市全戸配布することになった、図書館広報紙「発見!としょかん」の編集を担当している。図書館によく来

る人にはもちろん、まだ来たことがない人に、図書館に行ってみてほしい!と思ってもらえるよう、三次市内にある八つの図書館の情報を盛り込んで発信している。

これにも、もちろん締め切りがある。三次市が発行する広報誌の配布と一緒にせ込んでもらうため、締め切りを守らないわけにはいかない……。季刊発行なので、次号発行までの準備期間は十分にある。

あるはずなのに、ギリギリになってしまう。ここでも「瀬戸際の女」が顔を出す。

時間をうまく使えていないのは、自業自得ではあるが、いつも追われている感が否めない。ちょっと難しいことや面倒なことを先延ばしにしてしまうのは悪い癖と分かっているのだが……。

いつの時代も自己啓発本がよくベストセラーになる。みんな、自分を高めたい、成長させたい、ダメな自分から脱却したいと思ってい

る表れだろう。最近、本を二冊読んだ。

『結局、「すぐやる人」がすべてを手に入れる 能力以上に結果が出る「行動力」の秘密』藤田達藏著、青春出版社

『べ切本』左右社編集部編、左右社

一冊目は、まさに私に適した本で、二冊目は、作家としめきりにまつわるエッセイや手紙を集めたもの。これを読んだだけで安心してはいけないのだが、読めば心の底に明日への活力が湧き立ってくる気がする。

締め切りギリギリで仕事を終え、ほっと胸をなでおろした。さて、ここまで読んだ方は気づいただろう。前回の「図書館員ノート」の掲載を落としたのはこの「わたし」だということ。次のチャンスには、瀬戸際でなくなった「わたし」をお見せしたい。

三次市立図書館 F・R



『水滸伝』

なんで夢中になったのか

少年のころ夢中になった中国の小説は『水滸伝』と『西遊記』です。『西遊記』は怪力の孫悟空で親しまれ、今でもテレビドラマやアニメになって人気です。これに対して『水滸伝』は、少女にはそっぽを向かれています。なぜなら、人が次々と簡単に殺されるからです。

この小説で殺された人は、名前のある人だけでも数十人、無名の人は何千人に上るかわかりません。それでも少年に人気があるのは、胸のすくような豪傑が何人も出てきて、恩義とか、約束を大切に、悪い役人を退治するからです。

前置きが長くなりましたが、中国の北宋の時代の物語です。日本だと、平安時代の末期に当たります。世の中が乱れて、山賊が横行してしましました。この物語は、なんと山賊たちが主人公です。最初は、各地に散らばって略奪や狼藉を働く山賊たちでしたが、無実の罪を課せられた武芸者たちも身を寄せるようになって大きく膨らんでいきます。

なかでも「宋江（そうこう）」と

いう人物が出てきて、次第に秩序が出来ていきます。宋江は清廉な役人でしたが、兄弟のちぎりを交わした

なる前は相当な乱暴者です。肉屋の主人が悪徳だと聞いただけで、押しかけて因縁をつけて殴り殺し、お尋ね者になります。

集まってきた者たちは、剣術、槍術、弓術などの武芸者や妖術師や道士と多士濟々です。ほら吹き話もふんだ

また読んでみたい本⑧

少年少女たちへ

音谷 健郎



【水滸伝 挿絵】

世界の古典文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の少年少女たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介していきます。

第8回目は『水滸伝』です。もし興味を持たらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を歴て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

男を助けて罪をかぶり、やがて中国・山東省に実在する「梁山泊」という要害の地の山賊の仲間に入る羽目になります。

頭に盛り込まれて、物語は痛快に展開します。頭領の筆頭になった宋江は、最後は、宋江を「逆賊」として目の敵にする金権の鎮守長官のいる北京に乗り込み、勝利を収めます。頭領クラスは、宋江は108人となり、いつの

間にか、「政道を正す」と唱える大集団となるとところで終わります。この『水滸伝』人気から、ひとかどの人たち集う処を「梁山泊」にたとえるようになっていきます。飲み屋の看板に「梁山泊」と出ているのを時々見かけます。

この物語は、作者は施耐庵だとか、羅貫中だとか言われています。というの、宋江は実在の人物ですが、物語の半分は作り話です。宋の時代に流行った講釈師によって、尾ひれをつけて様々に語られていたものをまとめたからです。

日本では、これほどあっさりとした勢の人を殺す物語は見当たりません。この時代にも法律や裁判はありましたが、裁判が金や情実で左右されました。そんな不安な世の中だったので、豪傑たちが義理に駆られて人を殺しても、腐敗役人と争ったので、拍手喝采されたのです。現代では、この辺を差し引いて読む必要があります。

実際に読み返して見て、子どもの時にはこの人殺しが気にならなかつたのかなと、不思議な気がします。そのことよりも、一芸に優れた豪傑が集まってひと暴れる痛快さに酔っていたようです。

賽銭箱の表面は、女性器でできていた。木の洞(ほら)を利用して作ったものだろうが、光沢を帯びたその造形はとでもリアルだ。由美子は五百円玉を奮発して、賽銭箱の中に投げ入れた。手を合わせて、臨月を迎えている娘の安産を願った。

「子宝や安産には、もんがくさんが一番じゃ」
近所のおばあさんにすすめられた。細い山道に車を乗り入れて、山腹にあるお堂に参拝した。山門をくぐって石段を登ると、秋の冷気がいちだんと深まるような気がした。

理子は双子を身ごもっている。二卵性で、男と女の胎児なのだそう。産着や名前を準備するには便利だが、医療機器の進歩で、出産前にこうしたデータがすべてわかってしまうのは味気ないような気もする。(ごめんね。わたしは何の力になってもあげられない)

由美子に出産経験はなかった。先輩の経産婦として、娘にアドバイスできるものが何もない。理子が小学校の六年のときに、後妻として家に入った。

理子はよく懐いてくれた。仲の良い母娘だと今でも思う。喧嘩した記憶が一度もない……、そう思った時

に、それでは本物の家族ではないと別の自分が冷ややかに呟いた。理子が東京の大学に入った年に、夫が交通事故で急死した。

理子の嫁ぎ先の姑は、三人の男子を育てたベテランだ。理子はあまり話したがらないが、理子は自分の本当の母親と連絡を取って会っているらしい。わたしの出番はないのだ、

おばあさんが言った。そのおばあさんの指示通りに、由美子はオブリジェに手をのぼして、その先端を撫でた。誰かに見られているような気がして、顔が上気していた。

いつの間にか雨になっている。由美子は寢床に入って、その雨音を聞いていた。今夜はなかなか寝付けない

「慈母観音」

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子⑧

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

自分の役目はもう終わったのだと、由美子は言い聞かせていた。

参拝を終えてお堂の左手に行くと、近所のおばあさんが言っていた巨大なオブリジェが陳列されている。丸太を使ったリアルな男根の模型である。

「この子も、もんがくさんをお願いして授かったんよ。スポンと安産でな」
孫娘のおかっぱ頭を撫でながら、

似ていたのだ。勝手口のドアを開けると、灰色のコートを着た人影が立っていた。頭からフードをすっぱり被っている。

「こんばん、泊めてもらえないでしょうか」
消え入るような声で言った。不審に思ったが、この雨の中、追い返すわけにもいかない。客間に案内して、バスタオルを持ってきた。

「すみません、その座布団の上に敷いてください」

言われた通りにすると、女が跪いて、バスタオルの上に何かを置いた。それは赤ん坊だった。コートの中で、それぞれの腕に赤ん坊を抱えていたのだ。青い目の白人の赤ちゃんに、茶色の瞳の黒人の赤ちゃん。驚きや疑惑も、しかし、無邪気な笑みを見て霧散した。

「助かりました」

女はそう言って、コートのフードを外した。女の右目の周囲は、黒々とした痣が広がっている。左の頬の外側は、まるで違う肌を縫い合わせたような茶色をしている。

どこかで見た顔だと思ったら、女がニツと笑った。口元から牙が突き出して、女の顔がたちまち猫になった。由美子が悲鳴を上げた。



(夢だったのか)

布団から出た由美子は、喉の渇きを覚えて台所に向かった。勝手口の外から物音がする。夢の記憶が生々しいので、由美子は体を強張らせたまま、耳だけを澄ませていた。

猫のなき声が聞こえる。消え入るような小さな声だ。子猫だろうか。まだ夢の続きを見ているのだろうか。おそるおそる勝手口のドアを開けると、三毛猫が両足をそろえて坐っている。

「ママじゃないの?」
声をかけると、三毛猫が目を細めてニヤーと甘い声でないた。家の床

下にもぐりこんで、四匹の子猫を産んだ野良猫だ。放っておくわけにもいかないの、あちこちに声をかけて子猫をもらってもらった。母猫は自分で飼うつもりだったが、リードをつけた赤い首輪を縁側に残したまま、忽然と姿を消した。

三毛猫の背後から子猫が姿を現した。青い目をした白猫と、茶色の瞳の黒猫、まるで夢の中で見たような……。いや、もう一匹、出てきた。白と黒の斑(ぶち)である。

「あらあら、いったいどこの子猫を連れて来たの」

母猫が育児放棄した子猫だろうか。それとも、交通事故かなんかで母猫が死んでしまっ、孤児(みなしご)になったのだろうか。ママの子供ではないのは確かだ。由美子が動物病院に連れて行って、避妊手術をしてもらった。

「あんたもお人良しだわねえ」

そう呟いて、猫にお人良しもないものだと笑った。涙が溢れて止まらない。

「ごめんお母さん、あたしがママの首輪を外したの。よくなついていたし、大丈夫だと思ったから」

理子の声に、やっぱりと由美子は

頷いた。ママが姿を消したのは、理子が帰省しているときだった。

「お母さんがすっかりしていたから、言い出せなくて。絶対、帰って来ると思っただけ」

「いいのいいの。かわいい子猫を連れて帰って来てくれたから」

ママのことを報告するために、久しぶりに理子に電話した。

「体調はどう?」

「うん、順調。検査でも問題ないって」

そう言った理子の声が、どこか沈んでいくように感じられた。

「わたし、東京に行こうかな。声を聞いたら、理子ちゃんの顔が見たくなっちゃったわ」

受話器から聞こえてきた明るい歓声が、由美子のわだかまりを吹き飛ばした。目の前では、子猫たちがじゃれている様子を、満ち足りた顔でママが眺めている。

※「文覚堂」もんがくどう。庄原市高門町にある建築物。波瀾の生涯を送った文覚上人(遠藤盛遠)を祀ったお堂。子授け、安産、乳もらい、病氣回復、性力増進、おねしょ封じ、合格祈願などに御利益があるとされる。地元の人からは「もんがくさん」と親しみをこめて呼ばれている。

野菜の店頭無人販売はじめました! 新鮮野菜がたくさん入って1袋百円。

・無料本、百円本、50円本などのコーナー。
無料の漫画ルームもあります。

まちなか本屋さん
どろ書房

古書探索の旅に、お立ち寄りください。

●庄原市中本町2-1-10

●定休日：毎週火曜日 / 第1・3月曜日

●営業時間：9:30~19:00

●TEL:090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

<広告料1回5,000円 半年間20,000円 1年間35,000円>



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「野草で楽しむ散歩術」

岡本信人 著 ぶんか社

野草を観察すること、食べることを趣味にしている俳優が著者。今までにも「道草を喰う」「岡本信人の野草の楽しみ方」といった本を上梓してきた作者だが、「野草を楽しむすべてを一冊にしてみることにしました」と断言する総集編。野草の見分け方、採り方、そして料理方法まで、詳細に解説されている。とくに野草料理のレシピは、完成品の写真がとてもおいしそう



うで、自分も挑戦してみようかという気になってくる。

地球温暖化による環境破壊や大地震、津波、テロ……、心のどこかに不安の影が潜んでいる。「いざというときは草を食べてでも」、この本を読んでついそんなことを考えてしまった。手元に置いておくと安心できる？

「完璧な涙」

神林長平 著 ハヤカワ文庫

今まで読んできた本の中で、まるで道標のように屹立した別格な本が何冊かある。そのひとつが「完璧な涙」。感情を持たない少年が、未来と過去が干渉しあう歪な時空間を旅する物語。砂漠を自在に往来して生活している旅賊、熱砂の海での溺死、死者の街・霊園市では、死体を掘り出して蘇生させ自分の妻にする。幻想的な世界が、専門知識をベースにした硬質な文体で、精緻に説明&描写されている。



巻末の解説文を引用するのは本意ではないが、「完璧なSF小説である。完璧なSF小説的感動に涙できるのは、保証付きだ」という巽孝之の言葉を記したい。神林作品は、世界レベルだとわたしは評価する。

「街でいちばんの探偵」

司城志朗 著 カッパ・ノベルス

古本屋をやり始めて出会った作家がいる。ツカサキシロウもその一人。プロフィールに、矢作俊彦との共著でデビューとあったので読んでみたら大当り。矢作俊彦の文章も一級品だが、司城志朗も負けていない。映画のノベライズ本をいくつも手掛けているが、監督や編集者が「この人を書いてもらいたい」という気持ちはよくわかる。



そんな文章の匠が書いたハードボイルド、おもしろくないわけがない。「この主人公に出会うために、もしかすると二十年、えんえんと小説を書いてきたのかも知れない」と作者が書くほどに、魅力的な私立探偵が登場する。プロットもよく練られていて重層的だ。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どらくる俳壇

羨やまし隣の家の松手入

近藤 昌平

土鈴作り悔いなく終えて秋の暮

原 博己

鰯雲瑣事も大事も無きひと日

片岡 正人

まっすぐの富良野の道に秋の虹

隆 愚

流行歌悲しいほどに丸い月

赤川 冬人

※投句を歓迎します。

投稿&寄稿

「夢の中で」

富久光

母は裏の小川で黙々と大根を洗っていた
小川に渡した棚板に山のように積み上げていく
ふと気がつくとき、大根が崩れ川下へどんどん流されていく
小川はいつの間にか河となり河幅を埋めつくして
大根が流れていく
私は、このようすを母に告げた
母は河に添った道を大根が流れた方向に向かって
黙って歩いて行く
白いエプロンをつけたまま
一度も振り返ることなく
次第に後ろ姿が小さく遠ざかっていく
それは母であって母でなく、あたかも光の中を歩み行く
人影のように不思議な光景だった

私は例えようのない懐かしさと安らぎの
中に立ちつくしていた
この思いは目覚めて後も心を離れなかった
懐かしさと鮮明に蘇った思い出に手を合わせていた
家事と妻の介護
仕事に追われる日々
心身の疲れも限界を感じることもある
でも限界と決めるのは間違っている
と気を取り直す
生きている限り限界はないのだ
限界を生きているのではない
一瞬を生きているのだ
夢は夢であって夢ではなく限りなく
現実の底を流れる河なのかも知れない

今月のどらさん



この絵をブックカバーにしています。

絵・風太

どら書房委託販売コーナー

★「天馬書林」

新書の教養書と戦争関連本、ノンフィクションが充実。

★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中!



宮内八幡神社の社領は、毛利氏に代わって広島藩主になった福島正則によって没収されました。正則の悪名の一因になったと言われている。小用町の広政沖には、二町歩あまりの「神田」という名称の田圃があります。このあたりが社領ではなかったかと言われています。

享保二十一年（一七三六年）三月十一日、神格が認められ、近隣にはない、正一位の神位の勅許を得ています。

華表（かひよう、鳥居）は、享保五年（一七二〇年）、高茂町の高瀬で石を切り出して、船で西城川を曳いて帰り建立した記述があります。

庄原田園文化センターの資料館に展示してある「八朔馬」は、宮内八幡神社の本殿奥に安置してあったものですが、損傷が激しく、このままでは消滅してしまう恐れがある為、修理して資料館に保管する事になったものです。「八朔馬」が山間部に存在するのは、これのみで、珍しいそうです。

※「八朔馬」の八朔とは、八月一日の事で、この日は農耕の休日の習俗が全国的に伝わっています。別に、八朔は徳川家康が江戸城入りをした江戸時代の記念で、いろいろな行事

が残っています。跡取りが生まれると、当家で馬と台がセットで作られ、これを引き回して祝った習慣行事がありました。台の高さは昔は低く、明治以降は高くなりました。

五、伝神福寺について

神福寺は、宮内八幡神社の前身、吉備津神社建立の際、別当として、神社境内を中心に広がっていたと考

礎石や手水鉢、御旅所などに、十数個利用されています。

上面の柱座が方形に切り出されて段がついていて、丁寧な加工がなされています。礎石の方形柱座のものは、塔と金堂に使われていた事が考えられています。

この他、布目瓦（白鳳期）や軒丸瓦も出土して、三次市の広島県立歴史民俗資料館と庄原市の田園文化セ

組み合う事が考えられます。

この軒瓦は、七世紀後半の素弁蓮華文軒丸瓦と七世紀末の複弁蓮華文軒丸瓦の間に利用されたものです。

神福寺は、白鳳時代建立の古代寺院であります。

古代仏教は、天台宗（開祖、最澄）と真言宗（開祖、空海）お大師さんで、神福寺は真言宗であった為、宮内村には、真言宗の檀家が多い。今は、宝蔵寺の檀徒です。

広島県立歴史民俗資料館発行の

「ひろしまの古代寺院寺町廃寺と水切り瓦」によりますと、寺町廃寺が建立された翌年の六六八年に、奈良の法起寺式寺院として建立されています。法起寺は金堂と塔が法隆寺とは位置が反対で、講堂の位置も違います。場所は、法隆寺の少し東にあります。

庄原名称探訪 「永江の里」の由来について

寺岡隆行

えられています。

「神福寺」の名称は古代からこの寺院につけられていたものではない様です。頼杏平らが文政八年（一八二五年）に編集した「芸藩通志」に見られる「廃神福寺宮内村にあり」から知られる様に、中世以降の寺院名であったものを遺跡の名称として、再利用したものの様であります。

神福寺の礎石が現在、神社本殿の

ンターに所蔵されています。

軒丸瓦は、内側に複弁蓮華文を持ちながら、その外側に連続する山形の文様（線鋸歯文）をめぐらせ、縁を高く盛り上げたものです。又、文様の下端には、三角形をした小さな突起（水切り）はついていません（三次市の寺町廃寺の軒丸瓦には水切りがあります）。この軒丸瓦には、窪んだ線を二重に重ねた重弧文軒平瓦が

この年に、朝鮮半島の高句麗が滅亡しています。この頃の史跡に、寺町廃寺、三谷寺、東光寺、西光寺、亀井尻窯跡などがあります。

神福寺は、出土物はありませんが、建っていた確定的な場所も規模も解らず、「伝」がついています。今後の発掘調査や研究、説明が望まれます。

（以下、次号につづきます。）

《情報＆原稿を募集します!!》

- 仲間募集
 - 教室＆講座案内
 - イベント情報
 - あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター(現地記者)募集!
- どらくろあで地元の記事を書いてみませんか?

※応募先はどら書房・赤川まで。掲載は無料です。

『庄原メイプルラジオ』

毎週日曜日
13時～放送中!!

庄原で過ごすパーソナリティ達の
何気ない日常の話と地域の情報や
ゲストを招いて放送する地域密着
エンタメ放送!!

YouTube

和家チャンネル:



陶芸教室

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

自作のお茶碗で
お茶を飲んで
みませんか?

- 金・土・日曜日開催
- 場所: 県立広島大学前簡易郵便局に併設
- 費用: 一回500円+材料費
- 連絡先: 0824(74)0686 洲沢(スザワ)

手から手へ 大切なものが つながる フリーマーケット

第5回 ぐるぐるフリマ

IN 三次 CC プラザ

11月26日 SAT

10:00~15:00

1F セントラルコート&2F 手芸の丸十前通路

●お買い物もお楽しみください

こども服、雑貨、布小物、アクセサリー、木工品 etc....

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載しているので、
ダウンロードしてお楽しみいただけます。

<http://shobara.wix.com/dorakuroa>



発行: どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail: touzin@sannet.ne.jp
年間購読料: 2,000円(郵送費込)

誌面デザイン: ROUTE183
協賛: 九日市愛好会

編集後記

◇十月号で紹介した「庄原こどもミュージカル」、観てきました。ミュージカルの生の舞台を観るのは初めてです。つつい父兄の気持ちになつてしまふような、ほのぼのとした雰囲気心地よかったです。◇野良だったママ猫を、先月から飼い始めたのですが、猫にとつては拉致監禁されたようなもの。窓の外を眺めては、悲しそうな声で啼いています。野良だったので、におい付けのためか、ところかまわずおしっこをかけてしまう。ベッドだけは勘弁してほしいのですが、猫語がしゃべれる人はいませんか(苦笑)◇日本シリーズ、残念でした。日本一はまた来年以降に期待しています。

第190回
平成28年
しょうばら 九日市
11月9日 (水) 9:00~13:00

トピックス

★市民ギャラリー「アート多愛夢」では
布遊びキルト
とき

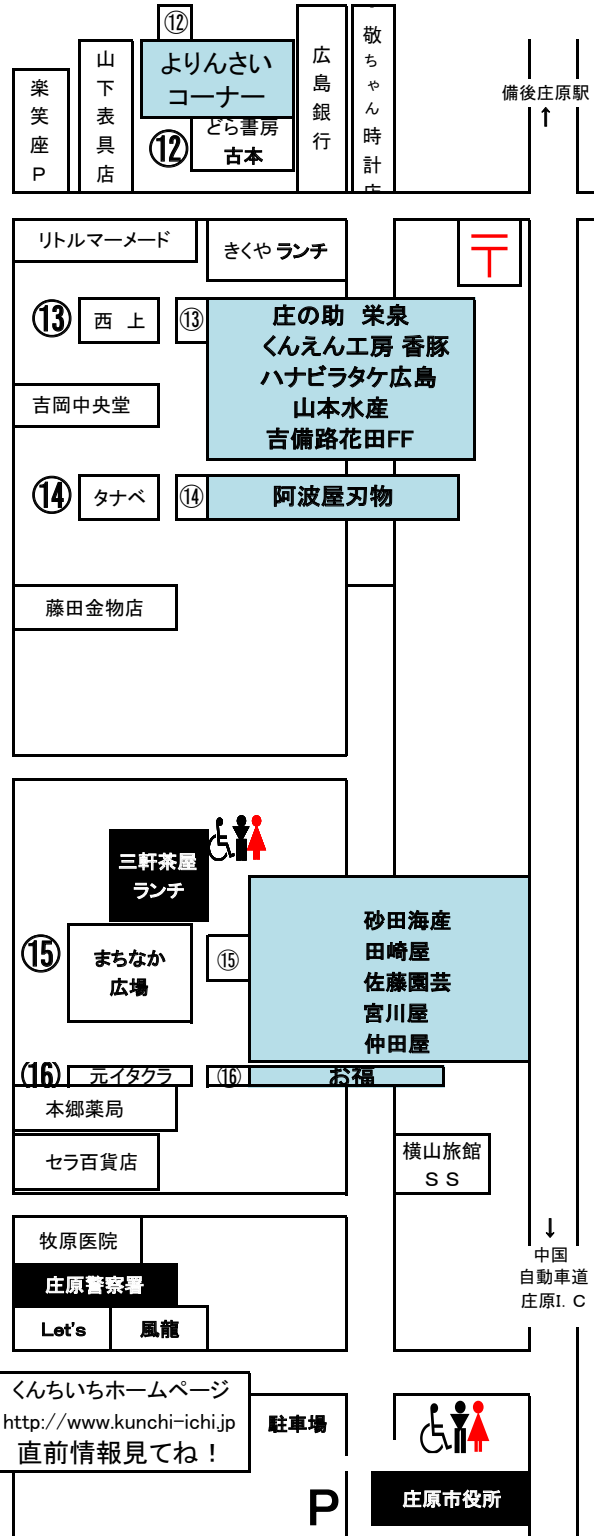
11月8日 (火) ~10 (木) 10時~16時

★風龍・・・九日市スペシャル! 餃子200円!

★どら書房・・・営業時間 9:30~19:00

毎週火曜日と第1・3月曜日はお休みです

広島みどり信用金庫	マルエイ	まぢ屋café あさ井	楽笑座P	s i o
楽笑座				
まかない食堂 11:00-12:30 うた声喫茶 13:30-15:00				
森川商店	⑪	元庄原寿司	⑪	
克國水産 開盛社	⑩	田邊酒店	⑩	
まなべ商事	⑨	元かいち	⑨	
ギャラリー アート多愛夢				
アパレルゴトー 岡本繊維	⑧	元タケムラ	⑧	
花一	⑦	須澤 宅	⑦	
Room of Keiko めだかの学校 やまのおみやげや	⑥	三上 宅	⑥	
ちくちくはうす玉手箱 かぐや姫 工房アム	⑤	天野 宅	⑤	
椰家(なぎんち) 郷屋 ハート ワークカンパニー	④	内海 宅	④	
リトルマーメイド庄原店 二八そば加工所 手作り工房アーミッシュ 健康企画グループ とらぢ	③	横山 宅	③	
ギャラリー三村	②	宮田 宅	②	
		キッチン北川		
すけあくろう	①	九日市 カフェ	①	



当日の天候により、断り無く
出店者・出店場所は変更する場合があります。

出店申込みは、
【毎月20日締切】 コンパネ 1枚スペース 1,000円~
九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽笑座内
TEL / FAX (0824) 72-8285

くんちいちホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>
直前情報見てね!

駐車場 P
庄原市役所